

受験
番号

--	--	--	--

第 143 回簿記検定試験答案用紙

生年月日 昭・平

1 級 ①

氏名

商業簿記

試験地(会議所名)	採点欄

問 1 (単位：千円)

採点欄

①	②	③	④
32,679	991,000	91,000	320,000

問 2

損益計算書

(単位：千円)

I	営業	収	益		
1	商品	売上	高	(800,000)	
2	受取	手数	料	(184,000)	(984,000)
II	営業	費	用		
1	商品	売上	原価	(678,500)	
2	販	売	費	30,000	
3	貸倒	引当	金繰入	(5,770)	
4	給	料	手当	25,000	
5	退職	給付	費用	(21,280)	
6	一	般	管理費	20,000	
7	支	払	リース料	(13,000)	
8	減	価	償却費	(90,893)	(884,443)
	営業	利	益		(99,557)
III	営業	外	収益		
1	有	価	証券利息	(600)	
2	受	取	配当金	(800)	(1,400)
IV	営業	外	費用		
1	支	払	利息	(1,116)	
2	社	債	利息	(17,000)	(18,116)
	経	常	利益		(82,841)
V	特	別	利益		
1	投資	有	価証券売却益		(4,000)
	税	引	前当期純利益		(86,841)
	法人	税、	住民税及び事業税	(35,000)	
	法人	税等	調整額	(△ 4,815)	(30,185)
	当	期	純利益		(56,656)

問 3 (単位：千円)

a.	b.	c.	d.
121,500	11,429	100,750	11,000
e.	f.	g.	
24,000	370,000	△ 3,549	

試験地(会議所名)	採点欄

第 1 問

採点欄

(1)	(2)	(3)
使用価値	時価ヘッジ	希薄化
(4)	(5)	
移転損益	実績主義	

第 2 問

設問 1 のれんを S 社の修正仕訳で計上する方法によった場合、20X5 年度末の円貨換算後の借対照表における次の金額を求めなさい。

① のれん	② 繰延税金負債	③ 資本金
106,920 千円	24,000 千円	143,000 千円
④ 繰越利益剰余金	⑤ 為替換算調整勘定	
112,915 千円	33,105 千円	

設問 2 20X5 年度末の日本商工株式会社の連結貸借対照表における為替換算調整勘定の金額を求めなさい。

23,625 千円

設問 3 20X5 年度末の日本商工株式会社の連結貸借対照表における非支配株主持分の金額を求めなさい。

129,600 千円

第 3 問

設問 1 20X1 年度の工事収益の金額を求めなさい。

10,500 百万円

設問 2 20X2 年度決算日における工事開始時点からの工事進捗率を求めなさい。

48 %

設問 3 20X2 年度の工事損益の金額を求めなさい。

660 百万円

設問 4 20X3 年度末の工事未収金の金額を求めなさい。

1,270 百万円

設問 5 20X3 年度末の工事損失引当金の金額を求めなさい。

230 百万円

設問 6 20X4 年度の工事原価の金額を求めなさい。

11,730 百万円

受験番号

第 143 回簿記検定試験答案用紙

生年月日 昭・平 . . .

試験地 (会議所名)	採点欄

1 級 ③

氏名

工業簿記

第 1 問

問 1

3,168,000 円

採点欄

問 2

(1) 36,480,000 円

(2) 72,960 円 (借方・貸方) 差異

(注) () 内は「借方」か「貸方」のいずれかを○で囲みなさい。

問 3

(1) 17,356,800 円

(2) 110,000 円/ロット

467,680 円 (借方・貸方) 差異

(注) () 内は「借方」か「貸方」のいずれかを○で囲みなさい。

問 4

(1) 25,080,000 円

(2) 21,098,000 円

問 5

(1) 1,705,960 円 (借方・貸方) 差異

(注) () 内は「借方」か「貸方」のいずれかを○で囲みなさい。

(2) 2,166,000 円 (借方・貸方) 差異

(注) () 内は「借方」か「貸方」のいずれかを○で囲みなさい。

問 6

① ④ ⑤ ⑦

第 2 問

①	仕損費	予定配賦額	加工費	異常仕損費	<u>原価差異</u>
②	<u>材料受入価格差異</u>	異常仕損費	非原価項目	処分価額	操業度差異
③	完成品	<u>売上原価</u>	営業外費用	材料消費高	良品
④	<u>科目別</u>	指図書別	組別	等級別	部門別

生年月日 昭・平
氏名

第 143 回簿記検定試験答案用紙

受験
番号

1 級 ④

試験地(会議所名)	採点欄

原 価 計 算

問 1

①	工程管理	検 査	補 修
②	連 産 品	副 産 物	仕 損 品
③	補 修		修 理
④	補 修		修 理
⑤		120,000	(万円)
⑥		3	(%)

採点欄

問 2

⑦	意思決定	業績評価	予算管理
⑧	原価差異分析	差額原価収益分析	CVP分析
⑨		2,000	(万円)
⑩		12,190	(万円)
⑪		1,100	(万円)
⑫		18,650	(万円)
⑬	第 1 案		第 2 案
⑭		7,360	(万円)

採点欄

1	前受金	21,000	／	売掛金	21,000
2	商品売上高	200,000	／	商品売上原価	182,000
				受取手数料	18,000
3	商品売上原価	500	／	商品	500
	$8,000 - (7,700 - 200) = 500$				
4	貸倒引当金	1,500	／	売掛金	1,500
	貸倒引当金繰入	5,770	／	貸倒引当金	5,770
	設定額 一般債権 $\{144,000 - (21,000 + 1,500 + 8,000)\} \times 2\% = 2,270$				
	貸倒懸念債権 $8,000 \times 50\% = 4,000$				
	繰入額 $(2,270 + 4,000) - (2,000 - 1,500) = 5,770$				
5	退職給付引当金	26,000	／	退職給付	26,000
	退職費用	21,280	／	退職給付引当金	21,280

正しい仕訳

退職給付引当金	26,000	／	現金預金	26,000
---------	--------	---	------	--------

期中処理(誤った仕訳)

退職給付	26,000	／	現金預金	26,000
------	--------	---	------	--------

退職給付会計用貸借対照表

年金資産	退職給付債務
152,000	267,000
91,000	未認識数理計算上の差異
	24,000

退職給付会計用損益計算書

勤務費用	期待運用収益
17,500	$152,000 \times 3\%$
	4,560
利息費用	} 21,280
$267,000 \times 2\%$	
5,340	
数理計算上の差異	
$24,000 \div (10年 - 2年) = 3,000$	

退職給付引当金

掛金拠出・一時金支払	期首残高
26,000	91,000
期末残高	当期繰入額
86,280	21,280

6	繰延税金負債	1,500	／	その他有価証券	5,000
	その他有価証券評価差額金	3,500			
	評価差益 $30,000 - 25,000 = + 5,000$				
	繰延税金負債 $5,000 \times 30\% = 1,500$				
	その他有価証券評価差額金 $5,000 - 1,500 = 3,500$				

仮受金	29,000	/	その他有価証券 投資有価証券売却益	25,000 4,000
正しい仕訳				
現金預金	29,000	/	その他有価証券 投資有価証券売却益	25,000 4,000
期中処理(誤った仕訳)				
現金預金	29,000	/	仮受金	29,000
7 繰延税金負債	75	/	その他有価証券	250
その他有価証券評価差額金	175			
その他有価証券	100	/	有価証券利息	100
その他有価証券	180	/	繰延税金負債 その他有価証券評価差額金	54 126

20X5年3月31日 帳簿価額

$$\text{償却額} \quad (10,000 - 9,600) \times \frac{24 \text{ カ月}}{48 \text{ カ月}} = 200$$

帳簿価額	$9,600 + 200 = 9,800$
評価差益	$10,050 - 9,800 = + 250$
繰延税金負債	$250 \times 30\% = 75$
その他有価証券評価差額金	$250 - 75 = 175$

$$\text{当期償却額} \quad (10,000 - 9,600) \times \frac{12 \text{ カ月}}{48 \text{ カ月}} = 100$$

帳簿価額	$9,800 + 100 = 9,900$
評価差益	$10,080 - 990 = 180$
繰延税金負債	$180 \times 30\% = 54$
その他有価証券評価差額金	$180 - 54 = 126$

8 支払利息	1,116	/	支払リース料	12,000
リース債務	10,884			
減価償却費	10,893	/	リース資産減価償却累計額	10,893

取得原価の決定

$$20X5 \quad 3/31 \quad 12,000 \times \frac{1}{(1+0.05)^1} = 11,428.57\dots$$

$$20X6 \quad 3/31 \quad 12,000 \times \frac{1}{(1+0.05)^2} = 10,884.35\dots$$

$$20X7 \quad 3/31 \quad 12,000 \times \frac{1}{(1+0.05)^3} = 10,366.05\dots$$

$$\underline{\underline{32,678.97\dots}} \rightarrow 32,679$$

20X4 4/1 リース契約時				
リース資産	32,679	/	リース債務	32,679

20X5 3/31 リース料支払時				
支払利息	1,634	/	現金預金	12,000
リース債務	10,366			
支払利息	$32,679 \times 5\% = 1,633.95 \rightarrow 1,634$			
リース債務	$12,000 - 1,634 = 10,366$			

20X5 3/31 決算日 $32,679 \div 3 \text{年} = 10,893$
 減価償却費 10,893 / リース資産減価償却累計額 10,893

20X6 3/31 リース料支払時
 支払利息 1,116 / 現金預金 12,000
 リース債務 10,884 /
 支払利息 $(32,679 - 10,366) \times 5\% = 1,115.65 \rightarrow 1,116$
 22,313

リース債務 $12,000 - 1,116 = 10,884$

20X6 3/31 決算日 $32,679 \div 3 \text{年} = 10,893$
 減価償却費 10,893 / リース資産減価償却累計額 10,893

9 減価償却費 80,000 / 建物減価償却累計額 80,000

期首建物減価償却累計額 $960,000 \times \frac{4 \text{年}}{12 \text{年}} = 320,000$

当期償却額 $960,000 \div 12 \text{年} = 80,000$

10 社債利息 3,000 / 社債 3,000

$(1,000,000 - 1,000,000 \times \frac{98.5}{100}) \times \frac{24 \text{ヵ月}}{60 \text{ヵ月}} = 6,000$
 発行価額 985,000

帳簿価額 $985,000 + 6,000 = 991,000$

当期償却額 $(1,000,000 - 985,000) \times \frac{12 \text{ヵ月}}{60 \text{ヵ月}} = 3,000$

11 仮受金 1,000,000 / 資本金 50,750
 新株予約権 1,500 / 資本準備金 50,750

新株予約権 $1,000,000 \times \frac{1.5}{100} \times 10\% = 1,500$

資本金 $(1,000,000 + 1,500) \times 1/2 = 50,750$

資本準備金 $(1,000,000 + 1,500) - 50,750 = 50,750$

12 法人税、住民税及び事業税 35,000 / 仮払法人税等 20,000
 未払法人税等 15,000

13 繰延税金資産 4,815 / 法人税等調整額 4,815

未払事業税 3,000

貸倒引当金 6,270

商品評価損 500

建物 80,000

退職給付引当金 86,280

計

176,050 $\times 30\% - 48,000 = 4,815$

← 12年の償却額 400,000 - 15年の償却額 320,000

14 繰越利益剰余金 1,000 / 利益準備金 1,000

資本金 $500,000 \times 1/4 = 125,000$

$125,000 - (50,000 + 20,000) = 55,000$

$10,000 \times 1/10 = 1,000$

$55,000 > 1,000$ よって 1,000 が積立額となる。

15 その他資本剰余金 5,000 / 自己株式 5,000

問3

a $144,000 - 1. 21,000 - 4. 1,500 = 121,500$

b $22,313 - 8. 10,884 = 11,429$

c $50,000 + 11. 50,750 = 100,750$

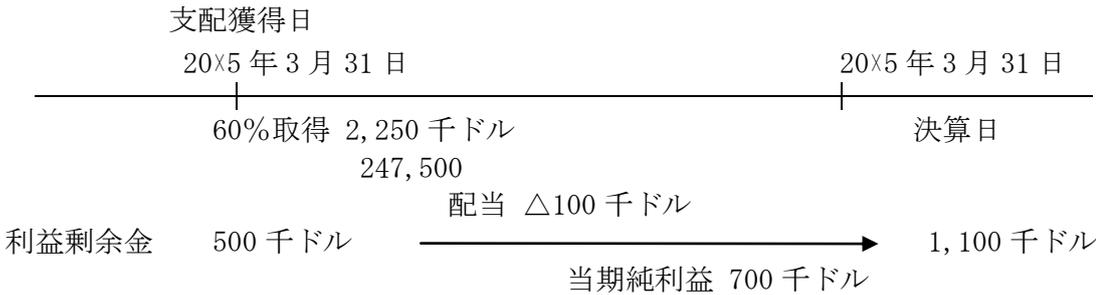
d $16,000 - 15. 5,000 = 11,000$

e 株式の発行による収入	+ 100,000
自己株式の取得による支出	△ 40,000
配当金の支払い	△ 10,000
リース料の支払い	△ 12,000
社債利息の支払い	<u>△ 14,000</u>
財務活動によるキャッシュ・フロー	<u>+ 24,000</u>

(リース料の支払いは、オペレーティング・リース取引のリース料は営業活動によるキャッシュ・フローとなるため、ファイナンス・リース取引のリース料のみとなる。)

f $360,000 + 14. 10,000 = 370,000$

g その他有価証券評価差額金の減少	△ 3,675
その他有価証券評価差額金の増加	<u>+ 126</u> 7.
純額	<u>△ 3,549</u>



のれんをS社の修正仕訳で計上する方法による場合

20×6年3月31日

20×5年3月31日 60%取得(S社の修正仕訳)

資産・負債の時価評価

諸 資 産	500千ドル		評 価 差 額	
			繰 延 税 金 負 債	300千ドル
				200千ドル

評価差益 3,600千ドル - 3,100千ドル = 500千ドル

繰延税金負債 500千ドル × 40% = 200千ドル

評価差額 500千ドル - 150千ドル = 300千ドル

のれんの計上

の れ ん 990千ドル / のれん評価勘定 990千ドル

$2,250千ドル - (1,300千ドル + 500千ドル + 300千ドル) \times 60\% = 990千ドル$

のれんの償却

の れ ん 償 却 額 99千ドル / の れ ん 99千ドル

(繰越利益剰余金)

$990千ドル \div 10年 = 99千ドル$

日本円への換算

S社修正後貸借対照表

諸 資 産	4,200千ドル × @120円	504,000
の れ ん	891千ドル × @120円	106,920
借 方 合 計		610,920
諸 負 債	1,300千ドル × @120円	156,000
繰 延 税 金 負 債	200千ドル × @120円	24,000
資 本 金	1,300千ドル × @110円	143,000
繰 越 利 益 剰 余 金	1,001千ドル	112,915
評 価 差 額	300千ドル × @110円	33,000
の れ ん 評 価 勘 定	990千ドル × @110円	108,900
為 替 換 算 調 整 勘 定	貸借差額	33,105
貸 方 合 計		610,920

繰越利益剰余金

配当金の支払 100千ドル × @112円 11,200	前期末残高 500千ドル × @110円 55,000
のれん償却額 99千ドル × @115円 11,385	当期純利益 700千ドル × @115円 80,500
前期末残高 (貸借差額) 112,915	

設問2

のれんを連結消去仕訳で計上すると

20×6年3月31日

20×5年3月31日 60%取得

資産・負債の時価評価

諸	資	産	500千ドル	／	評	価	差	額	300千ドル
					繰	延	税	金	負債
									200千ドル

評価差益 3,600千ドル - 3,100千ドル = 500千ドル

繰延税金負債 500千ドル × 40% = 200千ドル

評価差額 500千ドル - 150千ドル = 300千ドル

日本円への換算

S社修正後貸借対照表

諸	資	産	4,200千ドル × @120円	504,000
借	方	合	計	<u>504,000</u>
諸	負	債	1,300千ドル × @120円	156,000
繰	延	税	金	負債
			200千ドル × @120円	24,000
資	本	金	1,300千ドル × @110円	143,000
繰	越	利	益	剰
			余	金
			1,100千ドル	124,300
評	価	差	額	300千ドル × @110円
				33,000
為	替	換	算	調
			整	勘
			定	の
			振	替
			貸	借
			差	額
				<u>23,700</u>
貸	方	合	計	<u>504,000</u>

繰越利益剰余金

配当金の支払 100千ドル × @112円 11,200	前期末残高 500千ドル × @110円 55,000
前期末残高 (貸借差額) 124,300	当期純利益 700千ドル × @115円 80,500

為替換算調整勘定の振替

為替換算調整勘定 9,480千円 / 非支配株主持分 9,480千円

23,700千円 × 40% = 9,480千円

よって、為替換算調整勘定の金額は 33,105千円 - 9,480千円 = 23,625千円

設問3

非支配株主持分の金額

期	首	残	高	(143,000千円 + 55,000千円 + 3,300千円) × 40%	92,400千円
当	期	変	動	額	
				当期純利益の振替	700千ドル × @115円 × 40%
					32,200千円
				配当金の処理	100千ドル × @112円 × 40%
					△4,480千円
				為替換算調整勘定の振替	23,700千円 × 40%
					9,480千円
期	末	残	高		<u>129,600千円</u>

第3問 (単位：百万円)

	20X1年度		20X2年度		20X3年度		20X4年度		
着工	決算日		決算日		決算日		完成・引渡		
実際発生額	9,240						見積工事原価総額	44,000	
実際発生額	9,240	実際発生額	12,840				見積工事原価総額	46,000	
実際発生額	9,240	実際発生額	12,840	実際発生額	17,960		見積工事原価総額	52,000	
実際発生額	9,240	実際発生額	12,840	実際発生額	17,960	実際発生額	11,960	見積工事原価総額	52,000

	20X1年度		20X2年度		20X3年度		20X4年度	
工事収益	10,500	百万円	13,500	百万円	15,270	百万円	11,730	百万円
工事原価	9,240	百万円	12,840	百万円	18,190	百万円	11,730	百万円
工事損益	1,260	百万円	660	百万円	△2,920	百万円	0	百万円
工事損失引当金	0	百万円	0	百万円	230	百万円	0	百万円

設1

工事収益の計算

$$20X1 \text{ 年度} \quad \text{工事収益} : 50,000 \times \frac{9,240}{44,000} \text{ (工事進捗率 21\%)} = 10,500$$

現金預金	12,500	未成工事受入金	12,500
未成工事支出金	9,240	材料・労務費・外注費・経費	9,240
未成工事受入金	10,500	完成工事高	10,500
完成工事原価	9,240	未成工事支出金	9,240

設2 設3

工事収益の計算

$$20X2 \text{ 年度} \quad \text{工事収益} : 50,000 \times \frac{22,080}{46,000} \text{ (工事進捗率 48\%)} = 24,000$$

$$24,000 - 10,500 = 13,500$$

$$\text{工事損益} : 13,500 - 12,840 = 660$$

現金預金	12,500	未成工事受入金	12,500
未成工事支出金	12,840	材料・労務費・外注費・経費	12,840
未成工事受入金	13,500	完成工事高	13,500
完成工事原価	12,840	未成工事支出金	12,840

設4 設5

工事収益の計算

$$20X3 \text{ 年度} \quad \text{工事収益} : 51,000 \times \frac{40,040}{52,000} \text{ (工事進捗率 77\%)} = 39,270$$

$$39,270 - (10,500 + 13,500) = 15,270$$

$$\text{企業全体の損益} : 51,000 - 52,000 = \Delta 1,000$$

$$\text{工事損失引当金} : \Delta 1,000 - \{20X3 \text{ 年度 } \Delta 2,690 (15,270 - 17,960) + 20X2 \text{ 年度 } 660 + 20X1 \text{ 年度 } 1,260\} = \Delta 230$$

現金預金	13,000	未成工事受入金	13,000
未成工事支出金	17,960	材料・労務費・外注費・経費	17,960
未成工事受入金	14,000	完成工事高	15,270
工事未収金	1,270		
完成工事原価	17,960	未成工事支出金	17,960
完成工事原価	230	工事損失引当金	230

設6

工事収益の計算

$$20X4 \text{ 年度} \quad \text{工事収益} : 51,000 - (10,500 + 13,500 + 15,270) = 11,730$$

現金預金	13,000	工事未収金	1,270
		未成工事受入金	11,730
未成工事支出金	11,960	材料・労務費・外注費・経費	11,960
未成工事受入金	11,730	完成工事高	11,730
完成工事原価	11,960	未成工事支出金	11,960
工事損失引当金	230	完成工事原価	230

工業簿記解説

生産データ(単位:ロット)

1 月		2 月		3 月	
月初 —	完成品 320	月初 40 (32)	完成品 256	月初 240 (144)	完成品 240
当月仕込 400 (380)	(320) 正常減損 40 (28) 月末 40 (32)	当月仕込 464 (376)	(256) 正常仕損 8 (8) 月末 240 (144)	当月仕込 368 (280)	(240) 月末 368 (184)

販売データ(単位:ロット)

1 月		2 月		3 月	
月初 —	販売 320	月初 —	販売 220	月初 36	販売 200
当月完成品 320	月末 —	当月完成品 256	月末 36	当月完成品 240	月末 76

問1 問2

《 1 月 》

原価計算表

(単位:円)

摘 要	A 原料費		正常減損費	労 務 費		製造間接費	B 材料費		合 計
	数 量	金 額		換算数量	金 額		数 量	金 額	
当 月 投 入	400	11,520,000	—	380	12,038,400	15,321,600	320	1,408,000	40,288,000
正 常 減 損	40	1,152,000	△3,168,000	28	887,040	1,128,960	—	—	—
差 引	360	10,368,000	3,168,000	352	11,151,360	14,192,640	320	1,408,000	40,288,000
月 末 仕 掛 品	40	1,152,000	352,000	32	1,013,760	1,290,240	—	—	3,808,000
差 引 : 完 成 品	320	9,216,000	2,816,000	320	10,137,600	12,902,400	320	1,408,000	36,480,000
単 位 原 価		@28,800	@ 8,800		@31,680	@40,320		@ 4,400	@114,000

製造間接費 予定配賦率

$$\frac{181,440,000 \text{ 円}}{54,000 \text{ 時間}} = @3,360 \text{ 円/時間}$$

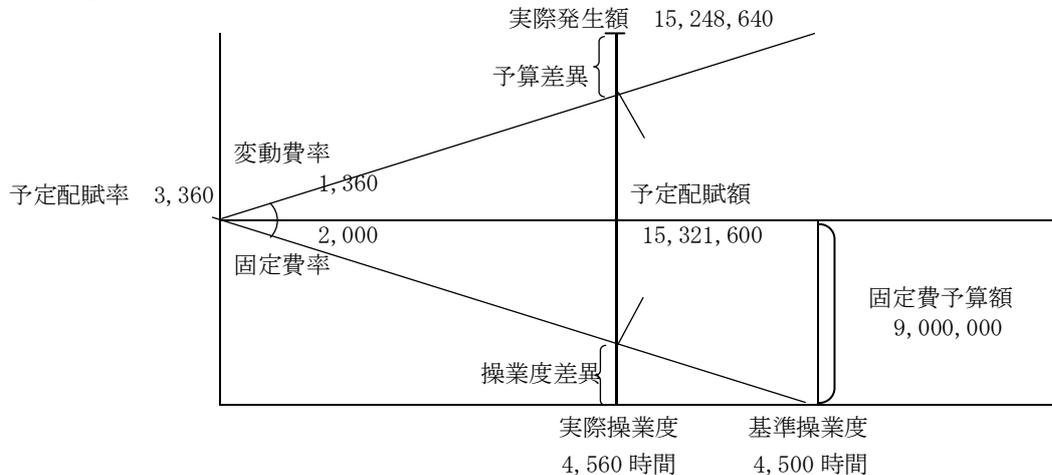
予定配賦額

$$@3,360 \text{ 円} \times 4,560 \text{ 時間} = 15,321,600 \text{ 円}$$

(変動費率 $\frac{73,440,000 \text{ 円}}{54,000 \text{ 時間}} = @1,360 \text{ 円/時間}$)

固定費率 $\frac{108,000,000 \text{ 円}}{54,000 \text{ 時間}} = @2,000 \text{ 円/時間}$)

[製造間接費]



原価差異総額 (@3,360 円 × 4,560 時間) - 15,248,640 円 = +72,960 円 (有利差異)

予算差異 (@1,360 円 × 4,560 時間 + 9,000,000 円) - 15,248,640 円 = △47,040 円 (不利差異)

操業度差異 (4,560 時間 - 4,500 時間) × @2,000 円 = +120,000 円 (有利差異)

正常減損費の配分

A原料費：	完成品原価	1,152,000円 × $\frac{320 \text{ ロット}}{360 \text{ ロット}}$ = 1,024,000円
		9,216,000円 + 1,024,000円 = 10,240,000円
	月末仕掛品原価	1,152,000円 × $\frac{40 \text{ ロット}}{360 \text{ ロット}}$ = 128,000円
		1,152,000円 + 128,000円 = 1,280,000円
直接労務費：	完成品原価	887,040円 × $\frac{320 \text{ ロット}}{360 \text{ ロット}}$ = 788,480円
		10,137,600円 + 788,480円 = 10,926,080円
	月末仕掛品原価	887,040円 × $\frac{40 \text{ ロット}}{360 \text{ ロット}}$ = 98,560円
		1,013,760円 + 98,560円 = 1,112,320円
製造間接費：	完成品原価	1,128,960円 × $\frac{320 \text{ ロット}}{360 \text{ ロット}}$ = 1,003,520円
		10,447,360円 + 1,003,520円 = 11,450,880円
	月末仕掛品原価	1,128,960円 × $\frac{40 \text{ ロット}}{360 \text{ ロット}}$ = 125,440円
		1,290,240円 + 125,440円 = 1,415,680円

問3

《 2 月 》

原価計算表

(単位：円)

摘 要	A 原料費		正常減損費	労 務 費		製造間接費	B 材料費		合 計
	数 量	金 額		換算数量	金 額		数 量	金 額	
当月投入	464	13,511,680	—	376	11,911,680	15,160,320	256	1,125,120	41,708,800
月末仕掛品	240	6,988,800	—	144	4,561,920	5,806,080	—	—	17,356,800
差 引	224	6,522,880	—	232	7,349,760	9,354,240	256	1,125,120	24,352,000
正常仕損	8	232,960	△ 808,960	8	253,440	322,560	—	—	—
差 引	216	6,289,920	808,960	224	7,096,320	9,031,680	256	1,125,120	24,352,000
月初仕掛品	40	1,280,000	—	32	1,112,320	1,415,680	—	—	3,808,000
合計：完成品	256	7,569,920	808,960	256	8,208,640	10,447,360	256	1,125,120	28,160,000
単 位 原 価		@29,570	@ 3,160		@32,065	@40,810		@ 4,395	@110,000

製造間接費 予定配賦率

$$\frac{81,440,000 \text{ 円}}{54,000 \text{ 時間}} = @3,360 \text{ 円/時間}$$

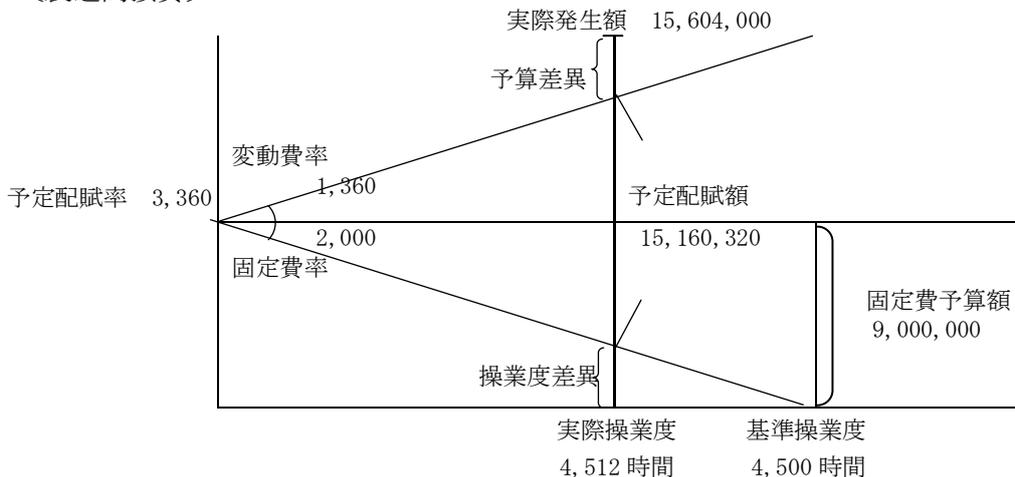
予定配賦額

$$@3,360 \text{ 円} \times 4,512 \text{ 時間} = 15,160,320 \text{ 円}$$

(変動費率 $\frac{73,440,000 \text{ 円}}{54,000 \text{ 時間}} = @1,360 \text{ 円/時間}$)

固定費率 $\frac{108,000,000 \text{ 円}}{54,000 \text{ 時間}} = @2,000 \text{ 円/時間}$)

[製造間接費]



原価差異総額 (@3,360円×4,512時間) - 15,604,000円 = △443,680円(不利差異)
 予算差異 (@1,360円×4,512時間 + 9,000,000円) - 15,604,000円 = △467,680円(不利差異)
 操業度差異 (4,512時間 - 4,500時間) × @2,000円 = +24,000円(有利差異)

問4

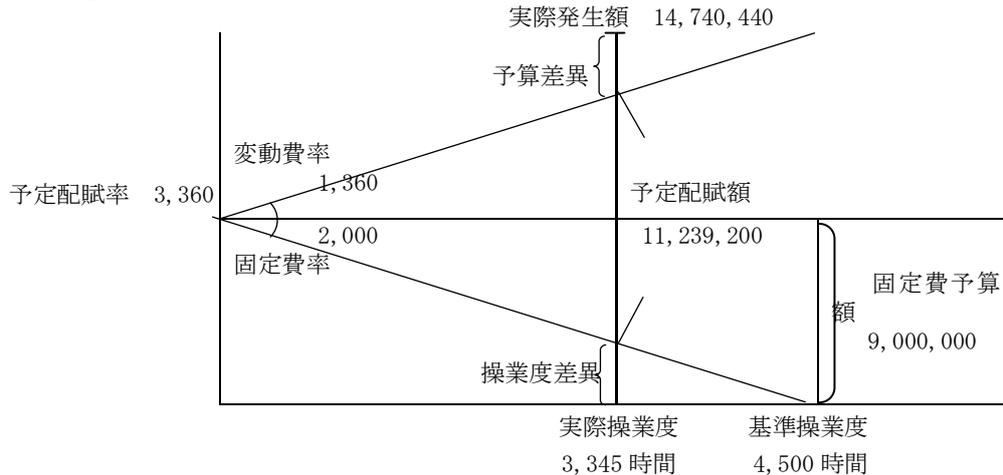
◀ 3月 ▶

原価計算表 (単位:円)

摘要	A原料費		労務費		製造間接費	B材料費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	金額	数量	金額	
当月投入	368	10,669,792	280	8,086,400	11,239,200	240	1,097,280	31,092,672
月末仕掛品	368	10,669,792	184	5,313,920	7,385,760	-	-	23,369,472
差引	-	-	96	2,772,480	3,853,440	240	1,097,280	7,723,200
月初仕掛品	240	6,988,800	144	4,561,920	5,806,080	-	-	17,356,800
合計:完成品	240	6,988,800	240	7,334,400	9,659,520	240	1,097,280	25,080,000
単位原価		@29,120		@30,560	@40,248		@4,572	@104,500

製造間接費 予定配賦率 $\frac{181,440,000 \text{円}}{54,000 \text{時間}} = @3,360 \text{円/時間}$ 予定配賦額 @3,360円×3,345時間 = 11,239,200円
 (変動費率 $\frac{73,440,000 \text{円}}{54,000 \text{時間}} = @1,360 \text{円/時間}$ 固定費率 $\frac{108,000,000 \text{円}}{54,000 \text{時間}} = @2,000 \text{円/時間}$)

[製造間接費]



原価差異総額 (@3,360円×3,345時間) - 14,740,440円 = △3,501,240円(不利差異)
 予算差異 (@1,360円×3,345時間 + 9,000,000円) - 14,740,440円 = △1,191,240円(不利差異)
 操業度差異 (3,345時間 - 4,500時間) × @2,000円 = △2,310,000円(不利差異)

販売データ

1月		2月		3月	
月初 -	販売 320ロット @114,000円	月初 -	販売 220ロット @110,000円	月初 36ロット @110,000円	販売 200ロット 36セット @110,000円
当月完成品 320ロット @114,000円	36,480,000円	当月完成品 256ロット @110,000円	24,200,000円	当月完成品 240ロット @104,500円	164セット @104,500円
月末 -	36,480,000円	月末 36ロット @110,000円	3,960,000円	月末 76ロット @104,500円	21,098,000円
				25,080,000円	7,942,000円

問5

3月末に繰り延べる

予算差異 : 47,040 円(不利差異) + 467,680 円(不利差異) + 1,191,240 円(不利差異)
 = 1,705,960 円(不利差異)

操業度差異 : 120,000 円(有利差異) + 24,000 円(有利差異) + 2,310,000 円(不利差異)
 = 2,166,000 円(不利差異)

問6

① 誤っている

製造間接費の完成品換算数量当たりの単価

2月 先月作業分 : 1,415,680 円 ÷ 32 ロット = @44,240 円/ロット

当月作業分 : 15,160,320 円 ÷ 376 ロット = @40,320 円/ロット

3月 先月作業分 : 5,806,280 円 ÷ 144 ロット = @40,320 円/ロット

当月作業分 : 11,239,200 円 ÷ 280 ロット = @40,140 円/ロット

② 正しい

A原料費の実際消費価格

1月 11,520,000 円 ÷ 46,080 ガロン = @250 円/ガロン 低い

2月 13,511,680 円 ÷ 52,780 ガロン = @256 円/ガロン 高い

A原料費の完成品単位原価

1月 (9,216,000 円 + 1,024,000 円) ÷ 320 ロット = @32,000 円/ロット 高い

2月 (7,569,920 円 + 232,960 円) ÷ 256 ロット = @30,480 円/ロット 低い

③ 正しい

(単位 : 円)

	1 月	2 月	3 月
売上高	40,000,000	28,600,000	26,000,000
売上原価	36,480,000	24,200,000	21,098,000
販売費および一般管理費	2,280,000	1,540,000	1,402,000
営業利益	1,240,000	2,860,000	3,500,000
	低い	高い	高い

④ 誤っている

直接労務費の完成品単位原価

1月 (10,137,600 円 + 788,400 円) ÷ 320 ロット = @34,144 円/ロット 高い

2月 (8,208,640 円 + 253,440 円) ÷ 256 ロット = @33,055 円/ロット 低い

⑤ 誤っている

1月は生産量と販売量が同じため在庫がないが、2月は生産量より販売量が少ないため在庫を抱えることになった。

⑥ 正しい

原価差異総額 3,501,240 円(不利差異)が営業利益 3,500,000 円を上回っている。

⑦ 誤っている

月初・月末の製品在庫量はゼロだが、仕掛品には月末があるため営業利益は変化する。

問1 (単位：万円)

⑤ 品質原価総額

品質原価	配賦基準量	配賦率	配賦額
設計基準費	40,000 時間	@ 5,000 円	20,000 万円
工程技术費	45,000 時間	@ 3,000 円	13,500 万円
検査費	20万台×0.5時間 100,000 時間	@ 3,000 円	30,000 万円
? 費	20万台×1 % 2,000 台	@ 122,500 円	24,500 万円
顧客サポート費	20万台×0.5% 1,000 台	@ 25,000 円	2,500 万円
製品回収・部品交換費	20万台×0.5% 1,000 台	@ 170,000 円	17,000 万円
保証? 費	20万台×0.5% 1,000 台	@ 125,000 円	12,500 万円
合計	-	-	120,000 万円

⑥ $120,000 \text{ 万円} \times 4,000,000 \text{ 万円} \times 100 = 3 \%$

問2 (単位：万円)

⑨ 第1案 追加的に発生する品質原価 検査のためのコスト 2,000 万円

⑩ 第1案 原価節約額ならびに売上高による利益増加額

補修費	@ 72,500 円×600 台	4,350 万円
顧客サポート費	@ 13,000 円×300 台	390 万円
製品回収・部品交換費	@ 150,000 円×300 台	4,500 万円
保証修理費	@ 55,000 円×300 台	1,650 万円
貢献利益の増加額	@ 130,000 円×100 台	1,300 万円
合計		12,190 万円

⑪ 第2案 追加的に発生する品質原価

設計技術費	@ 5,000 円×1,000 時間	500 万円
工程技术費	@ 3,000 円×2,000 時間	600 万円
合計		1,100 万円

⑫ 第2案 原価節約額ならびに売上高による利益増加額

補修費	@ 72,500 円×800 台	5,800 万円
顧客サポート費	@ 13,000 円×500 台	650 万円
製品回収・部品交換費	@ 150,000 円×500 台	7,500 万円
保証修理費	@ 55,000 円×500 台	2,750 万円
貢献利益の増加額	@ 130,000 円×150 台	1,950 万円
合計		18,650 万円

⑬ ⑭

第1案 原価節約額ならびに売上高による利益増加額 12,190 万円－

追加的に発生する品質原価 2,000 万円＝10,190 万円

第2案 原価節約額ならびに売上高による利益増加額 18,650 万円－

追加的に発生する品質原価 1,100 万円＝17,550 万円

よって、17,550 万円－10,190 万円＝7,360 万円有利な第2案を採用すべきである。